

編集後記

中島 俊克

フォーラム 17 号をお届けします。本号も、座談会・シンポジウム・授業探訪・事例報告と盛りだくさんです。とくにシンポジウムは、2012 年度からの総合教育科目の大幅改編を主題に、大いに盛り上がりました。この改編は、学生の知性を自由に伸ばすことを目標に発足した全カリ総合の当初の理念そのものを問い直すことにもつながるので、スタート前にもう一度足場を固めようということで企画されたのですが、高等教育だけでなく日本の知的状況そのものが激変しつつあることを受け、聴衆をも巻き込んだ熱い議論が展開されたと思います。詳細は中味を読んでいただくしかありませんが、司会をした私自身は、法学部の小川先生が「理想を説くのもいいが今いる学生をどうするかというのが真の問題だ」と話されたのが一番、腹に響きました。これは全カリだけの問題ではないでしょう。学業不振者の急増という事態の背後にある、教員と学生のすれ違いについて、もっと深く考えなければいけないと痛感しました。最近『アホ大学のバカ学生』という本が売れているようですが（読んでみると意外とマジメな本です）、我々大学教員も学生のことをゆとり教育世代のバカどもと決めつけないで、彼らの言うことに謙虚に耳を傾け、彼らが本当は何を求めているのかを知る努力を、もっともっとしなければならぬのではないのでしょうか。

学習ツールに関する座談会を企画したのも、基本的にはそうした問題意識からです。直接のきっかけは言語の先生方から出された電子辞書使用の是非についての議論なのですが、話はパソコンからケータイ・スマホへ、SNS へと止めどもなく広がっていきました。集まってくれた学生は、伝統的な学習法に比較的好意を持ってきている諸君だったと思いますが、それでも「メールに 1 時間返事が来ないと不安でたまらなくなる」などと言われると、彼我の隔たりを痛感してしまいます。スマホを駆使して何でもネットで調べ倒すことが「勉強」だと思い込んでいる多くの学生諸君に、文章をまとめながら自分の頭で考えることの楽しさ、面白さを、どうやって伝えたいのか、ケータイすら満足に使いこなせない文系老いぼれ教員である私の悩みは深まるばかりです。

なかじま としかつ

（経済学部教授／

全学共通カリキュラム運営センター教育研究・広報委員／

総合教育科目構想・運営チームメンバー）